

「うわぐつ」「うわばき」調査について

2015/08/10 熊本大学日本語日本文学研究室

2015年8月8日(土)の熊本大学オープンキャンパスにおいて、日文研究室前の廊下スペースを使って、簡易版の方言アンケートを行いました。

これは、九州の地図を用意しておいて、「学校の中で履くはきもの」を何と呼ぶかについて、「うわぐつ」「うわばき」「改めて聞かれると分からない」の3択で、回答者の居住地・出身地に色別のシールを貼ってもらう、というものです（地図は別ファイルを参照）。

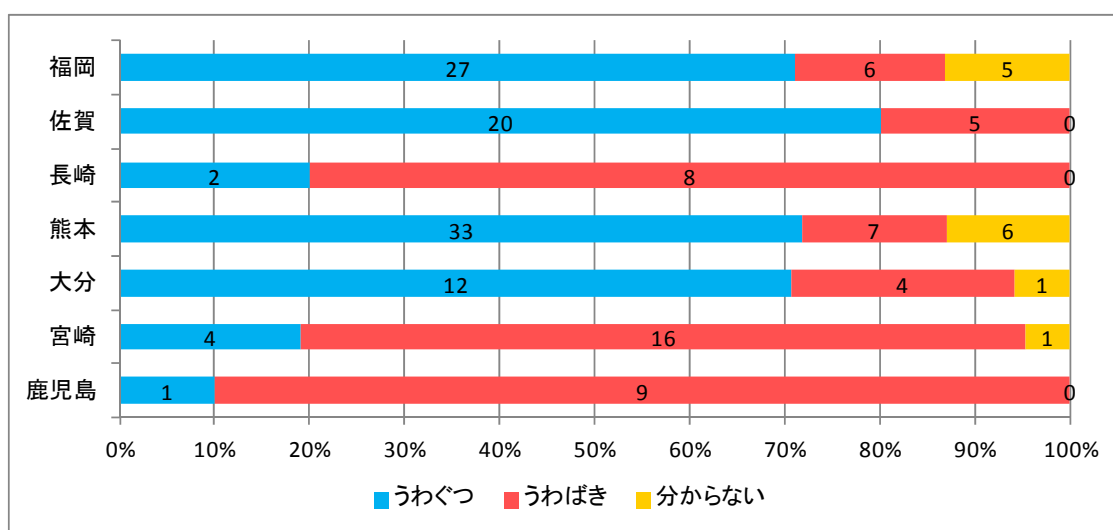
アンケートの結果、九州内167人、九州外3人の回答が得られました。回答者の多くは高校生ですが、保護者の方や通りすがりの大学生・大学教員の回答も含まれています。以下、多数の回答が得られた九州内のデータを見ます。

まず、県別の回答は、次の表のとおりです。人数に偏りがありますが、各県の方から回答が得られました。

表：「学校の中で履くはきもの」（県別・人数）

	うわぐつ	うわばき	分からない	計
福岡	27	6	5	38
佐賀	20	5	0	25
長崎	2	8	0	10
熊本	33	7	6	46
大分	12	4	1	17
宮崎	4	16	1	21
鹿児島	1	9	0	10
計:	99	55	13	167

次に、県別にそれぞれの回答の割合を示すと、次の図のようになります。



図：「学校の中で履くはきもの」（県別・割合）

全体の傾向として、「学校の中で履くはきもの」のことを「うわぐつ」と呼ぶ人が多い県と、「うわばき」と呼ぶ人が多い県に、はっきりと分かれることが分かります。

まず、「うわぐつ」と「呼ぶ／呼んでいた」人は、佐賀県（20 人／80%）、熊本県（33 人／71.7%）、福岡県（27 人／71.1%）、大分県（12 人／70.6%）に多く見られました。

一方、「うわばき」と「呼ぶ／呼んでいた」人が多いのは、鹿児島県（9 人／90%）、長崎県（8 人／80%）、宮崎県（16 人／76.2%）でした。

「改めて聞かれると分からない」人は、回答者数が多かった福岡県と熊本県に比較的多く見られます（「分からない」が、「どちらも使う」という意味なのか「どちらも使わない」という意味なのかは不明です）。

なお、この「うわぐつ／うわばき」に関しては、約 1 年前に漫画家の中村ゆきひろ氏が **Twitter** を使った調査を行い、「「うわぐつ」「うわばき」分布図」を作成していらっしゃいます。当時の様子は、以下の記事等で確認できます。

中村ゆきひろ (@Nmurayukihiro) 氏のつぶやき（2014 年 8 月 28 日）

<https://twitter.com/Nmurayukihiro/status/504893653328728064>

「うわぐつ」って言葉が通じない？ 日本の「うわぐつ」「うわばき」分布図完成！
（ねとらぼ、2014 年 8 月 27 日）

<http://nlab.itmedia.co.jp/nl/articles/1408/27/news131.html>

中村氏の調査では、

「うわぐつ」優位： 福岡県、佐賀県、熊本県、大分県

「うわばき」優位： 長崎県、宮崎県、鹿児島県

となっており、今回の調査の結果は、これを裏付けるものとなりました。

ただ、「うわぐつ」「うわばき」どちらが優位な県でも、県庁所在地に近い都市部に「うわぐつ」使用者がいるという傾向が読み取れるように思います。

また、アンケート担当の学生によると「保護者世代の方は「うわばき」が多かったかもしれない」ということだったので、世代差がある可能性もあります。

謎はさらに深まりましたが、興味のある方は、ぜひチャレンジしてみてください。

文責：茂木